

平成 29 年度 第 1 回南砺市行政改革推進委員会会議録【全文（一部意識）】

1. 開催日時 平成 29 年 9 月 26 日（火） 午前 10 時から午前 12 時
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 講堂
3. 出席者 ○委員 18 名
松本久介委員（副委員長）、宮本佳子委員、安達行成委員、野原哲二委員、三谷直樹委員、小林加津實委員、栗山芳雄委員、蟹野正男委員、長尾治明委員（委員長）、石黒厚子委員、武部範代委員、松村麻由子委員、山田由理枝委員、梅本大輔委員、磯辺文雄委員、沖田光弘委員、宮下直子委員、中野ミチ子委員
○行革推進本部 13 名
田中市長（本部長）、工藤副市長（副本部長）、高田教育長
斉藤市長政策部長、上口市長政策部担当部長
吉澤市民協働部長、荒木市民協働部担当部長、米田ブランド戦略部長、荒井ふるさと整備部長、酒井教育部長、柴田議会事務局長
森田地域包括医療・ケア部長、叶山地域包括医療・ケア部担当部長
○事務局（行革・施設管理課）6 名
石崎行革・施設管理課長、山下行革推進係長、森施設再編係長、五十嵐施設管理係長、野村副主幹、戸田主事
4. 欠席者 なし
5. 傍聴者 なし
6. 議題
 - 1) 第 2 次南砺市行政改革実施計画〔第 1 期〕（H24～H28）の実績について
 - 2) 第 2 次南砺市公共施設再編計画の進捗状況について【平成 29 年 5 月 31 日現在】
 - 3) 平成 28 年度行政評価（施策・事務事業マネジメントシート）の公表について
 - 4) 南砺市第三セクター改革プランによる、第三セクター経営状況報告及び 改革実施計画進捗状況に係る点検・評価（平成 28 年度）について

○開 会 午前 10 時

【市長政策部担当部長】

ただ今より、平成 29 年度 第 1 回 南砺市行政改革推進委員会を開会する。本日の会議の出席者は、配布した座席表の通りとなっている。

まず始めに、今回より、地域審議会からの推薦による委員として、井口地域より、林 則雄委員に代わって、小林 加津實 様に、委員に加わっていただくことになった。お手元への配布をもって、委嘱状の交付とさせていただきます。

【市長政策部担当部長】

ここで、委員長からご挨拶をいただきたい。

【委員長】

第一回目の推進委員会に集まっていたいただき感謝申し上げます。昨日、安倍総理から衆議院の解散の意向が示され、所信表明に近いような構想を述べたと私は受け止めた。国としては、生産性の向上と人づくり革命の2つの課題として今後取り組みたいとのことだが、行政改革を進める地方行政にも当てはまると思う。公共サービスの効率性、質、規模が問われている。それを担うのが人であり、市職員が市民に対してどのようなサービスの取組を行っていくかがポイントとなってくる。情報化推進が高まり、南砺市では小規模多機能のネットワーク社会が提示されており、庁舎の再編についても現在検討しているところである。これからの時代は、フェイス・トゥ・フェイスから、IoT や AI ロボットが盛んになりつつあるが、情報システムをどのように活用し、情報推進を進めるかが課題となってくると感じる。本日の委員会では、行政改革実施計画、公共施設の再編、第三セクター等、4つの議題について議論いただく。結論を出すにあたっては、思い切って捨てるという考えも必要となる。全ての意見を受け入れることは難しく、取捨選択することとなる。将来に向けた方向性について、委員の皆様から様々な意見を伺いたく、よろしくお願ひしたい。

【市長政策部担当部長】

続いて、南砺市行政改革推進本部長の市長がご挨拶を申し上げます。

【市長】

お忙しい中、一回目の推進委員会に委員の皆様に出席いただき、また日頃から市政運営や地域活動に御協力賜り、厚く感謝申し上げます。先日、東京と東北を訪問し、ダムやポート場を有する首長と話をする機会があった。由利本荘市や仙北市など、行政改革や地方創生を進める一方、地域づくりについて同じ悩みを抱えており共感する面があった。情報交換しこのようなネットワークを使いつつ課題解決に取り組みたい。由利本荘市は、南砺市の倍以上の面積がある中で、公共施設を集中し、取捨選択しているとのことだった。仙北市は、自動運転の先進地であり、南砺市も自動運転の実証実験を行う予定である。課題はあるものの必ず未来に役立つと感じた。誘客については、外国人の長期間滞在に農家民宿の活用等を行っている例もあり、東京オリンピックの開催に向けて、どのように地方に呼び込むか検討している。南砺市の行政改革実施計画について、昨年度、3年間延長することとし、改定版を委員会で提示したが、今回は、改定前の実績について評価いただきたい。第三セクターについては、平成28年度から三セク改革プランに取り組んでおり、三セクの自立に向けた取組を検証する。庁舎の統合も含め、公共施設の再編では、30年間で施設を半減させる計画となっているが、決断は難しい面もある。庁舎については、各地域で地域審議会を開催しながら、庁舎再編によって生じる空きスペースの活用や他の施設との複合化等について検討しながらしっかりと進めたい。短い時間であるが、市の未来に向け

た委員の皆様の意見をいただきたい。

【市長政策部担当部長】

それでは、予定の議事に入るが、ここからの進行は委員長さんをお願いしたい。

【委員長】

では、これから議事に入りたいと思う。まず始めに、協議事項として「第2次南砺市行政改革実施計画〔第1期〕(H24～H28)の実績」について事務局から説明をお願いする。

〔事務局から説明〕

【委員長】

事務局から説明があった。質問、意見など、活発な意見をお願いしたい。

【A 委員】

実績に関する資料の中で、改革事項の進捗状況では、前進したA評価が83項目のうち、64項目あり、良かった印象を受ける一方、目標値を設定している指標では、達成率が全体的にとっても低い。目標値が高すぎたものもあるかもしれないし、目標値に達しなかったけども確実に改善したものもあるのかもしれないが、進捗率と達成率の関係性が分かりにくい。分かりやすい表現の仕方の方がよいと思う。

市内公共交通体系の連携強化の項目では、解説文で、人口減少とマイカー普及の影響について書かれているが、マイカーはかなり以前から普及している。公共交通の利用者数はそれほど減少していないが、使いやすと感じる市民の割合が低下している。高齢化等により、求められるサービスのあり方が変わってきていると感じる。

【行革・施設管理課長】

実績の表し方に関する意見である。前進となっているものが多いが、指標が悪くなっている項目もある。指標設定については、現在取組中である第2期行政改革実施計画では、見直しを行い、全ての項目について指標とその目標値を設定したので、分かりやすい評価になる予定である。

【B 委員】

市から派遣している職員数はゼロを目指していたが、まだ4人残っている。どのような団体に派遣しているのか。

滞納整理による収納率の向上に向けた取組を行ったが実績としては悪化している。主になどどのような原因があるのか。

定員適正化計画に基づく職員数の適正化の項目がある。合併で8町村がひとつになった

スケールメリットにより第一次定員適正化計画では10年で200人程度削減し目標達成したとのことであるが、南砺市の人口は1年間で700人程減少している。それに加え、現在は、行政センター機能の見直し、小規模多機能自治、庁舎再編など、当初に想定していなかった課題があるので、現行の計画を見直すべきではないか。

【行革・施設管理課長】

職員の派遣については、社会福祉協議会に4人の派遣であるがゼロを目指しているところである。定員適正化計画は、37ページに詳細を記載しているが、平成23年の707人を647人とする目標としていた。これは第一次定員適正化計画の後半部分であり、第二次定員適正化計画では、対象とする職員を変更しているが、それぞれ目標人数は達成している。

【市民協働部長】

滞納対策強化による収納率の向上については、32ページに推移が書かれている。平成28年度の収納率目標値は20%だったが、実績は12.87%だった。平成28年度は、現年度滞納から後年に伸びないような取組に力を入れ、給与差押え手続きや個別徴収を実施した。大きな額が入った年もあれば、件数は増えても総額が伸びなかった年もある。今後は、給与所得者について特別徴収100%を目指していく。

【市長政策部長】

第二次定員適正化計画は平成28年度から実施しているが、第一次定員適正化計画の中から、訪問看護などの福祉部門についてサービスの提供、収入と人員配置が密接に連動している人員分を除いた定員管理を行っている。第二次定員適正化計画では、庁舎機能の再編や行政センターの見直し等の組織の抜本的な変更があった場合に、状況を見ながら適宜見直しを行うこととしている。現在、行政センター機能の見直しを行っており、全ての業務の洗い出しをしており、これらの方向性がはっきりした段階で、計画の見直しを行う。第一次定員適正化計画では207人の削減を実施しており、他市と比べても人件費の割合は低くなっているが、人員が減ったことにより、残業時間も増えている。仕事のやり方の見直しを図っていく。

【B 委員】

人口が減少している現状に対して、職員数をどのように考えているか。

【市長政策部長】

人口が減少すれば、行政サービスのあり方自体を見直す必要があると考える。課や係の統合等も行いつつ、市民ニーズに対応しなければならない。行政の仕事のあり方、庁舎再編も含めて、人口に見合った定員管理を今後も続ける。

【C 委員】

行革実施計画の実施により職員定員は2人減り、1400万円ほど削減したが時間外手当については、増加している。職員数削減による効果額と時間外手当の関係はどうなっているか。

病院事業の見直しの項目では、医師や看護師の数は現状維持であるが、評価はAとなっている。どのような理由でA評価としたのか。看護師は地域のために貢献しているという魅力があり、職員採用に応募される場合が多い。市民病院では、全国で3割が実施している機能評価を実施しており、業務改善につながっている。病院改革プランに取り組んでいると思うが、南砺中央病院でも機能評価を実施してほしい。

【市長政策部長】

平成28年度の人件費については、平成27年度と比べると、定員適正化計画の実績により1480万円ほど削減した一方、選挙や国勢調査の時間外分を除いた時間外手当が650万円ほど増加している。全体的には、207人の職員が減った影響で業務量が増えており、仕事のやり方を見直さないと、時間外手当の縮減はなかなか進まないと考えている。

【C 委員】

仕事のやり方を工夫しながら働き方改革を進めていただきたい。公務員だけ、長い時間働けばいいということではないし、人員削減で時間外手当が増えた、だけの説明では情けないので、何らかの対応をお願いしたい。

【市長政策部長】

働き方改革を進めているところである。新年度予算編成方針でも、このようなことを考慮し予算要求することとしている。

【地域包括医療・ケア部長】

評価がAになっているのは、平成23年度の数値に比べると上向きになっているためである。平成28年度には、病院のあり方を検討し、病院改革プランを策定したこともある。市民病院の機能評価は5回行っているが、県内に先駆けた取組であり、業務改善の一つのツールとしてとらえている。この場で南砺中央病院にも機能評価を実施するか明言できないが検討したい。

【C 委員】

ぜひ実施してほしい。

【B 委員】

市から社協への4人の派遣について、社協の取組にはサービスの取組もあるが、社協と行政のやるべきことが重複している部分があると思う。時代に対応した両者の関係を築くべきであり、4人の派遣は、今すぐにでも引き上げることが可能だと思うが、なぜできないのか。人口減少、小規模多機能自治などの背景もあるが、行政とそれ以外の団体の棲み分けをきちんと行うべきであり、早急に検討して欲しい。

【市長政策部長】

社協への派遣は、デイサービスセンター部門であり、看護師や専門職などについて、五箇山地域でなかなか人員が確保できていないのが現状である。その中でも、社協の職員確保に努めていただき、市職員派遣はゼロを目指す計画を立てている。小規模多機能自治を進めていくにあたり、市職員の業務とどのような役割分担とするか、現在検討しているところである。場合によっては、業務の移譲に伴う費用面での支援が必要か、等について議論しているところである。

【委員長】

次に、「第2次南砺市公共施設再編計画の進捗状況」について説明願います。

〔事務局から説明〕

【委員長】

ただいま、事務局から「第2次南砺市公共施設再編計画の進捗状況」について説明があった。ここからは、各委員の皆様から、ご質問・ご意見等をいただきたい。

【D委員】

公共施設の譲渡がなかなか進んでいない状況である。民間では空家も増えつつあるが、私は空家を改修し利活用する活動を行っている。空家に住むことで移住したい人も多くいると思われるが、受け入れ体制が整っていない。このままいくと、10年から20年後には廃墟がたくさんできるのではないかと不安を感じる。受け入れ側がもっとオープンになる仕組み造りを考える必要がある。また、個人的な意見だが、どのような公共施設が地域にあるのか知らない人が多く、もっと身近な問題として取り組まなければならないと思う。建築業界では、近年、「建てない壊さない」が合い言葉になっている。少し手を加えることで利用できる施設もある。これだけ多くの公共施設がある状況であり、行政だけに頼る時代ではないので、市民自らが問題意識を持たなければいけないと考える。

【行革・施設管理課長】

公共施設再編計画を策定する際などに、何度も地域の方には説明してきた。広報の中でも特集を組んできたが、なかなか理解されていないとのことなので、再度周知方法につい

て検討したい。建物は利用してもらわなければいけない。民間に譲渡した上で雇用を生んでもらったり、収益を上げてもらったりしながら使ってもらいたい。施設の活用の仕方については、全国に向けて提案募集を行っている。施設の再編については、現在の指定管理者や地元の方の理解を得られるよう説明しながら進めていきたい。

【D 委員】

活動の例として、砺波市の古民家で農家レストランを行っているところがある。やる気がある高齢者の取組であり、始めはガラガラだったが今はとても盛況とのことである。全国に発信するのではなく、地元の方々に施設の維持管理を行っていく方法も模索すればどうかと思う。

【行革・施設管理課長】

市では起業家支援も行っており、連携しながら進めていきたい。

【委員長】

次に、「平成 28 年度行政評価（施策・事務事業マネジメントシート）の公表」について説明願います。

〔事務局から説明〕

【委員長】

ただいま、事務局から「平成 28 年度行政評価（施策・事務事業マネジメントシート）の公表」について説明があった。ここからは、各委員の皆様から、ご質問・ご意見をいただきたい。

【E 委員】

総括表の中で、ボランティア活動の推進についてはシート数が書かれていないが、作成していないのか。

【行革・施設管理課長】

事務事業マネジメントシートは、予算の科目ごとに作成している。ボランティア活動の取組自体は行っているが、ボランティア活動単独の予算科目はなく、ボランティア事業を含む他の事業のシートにまとめて記載されている。

【委員長】

ただし書きで示せば分かりやすいと思う。

【行革・施設管理課長】

そのように修正させていただきたい。

【委員長】

次に、「第三セクター改革プランによる、第三セクター経営状況報告及び改革実施計画進捗状況に係る点検・評価（平成 28 年度）」について説明願います。

〔事務局から説明〕

【委員長】

ただいま、事務局から「第三セクター改革プランによる、第三セクター経営状況報告及び改革実施計画進捗状況に係る点検・評価（平成 28 年度）」について説明があった。ここからは、各委員の皆様から、ご質問・ご意見等をいただきたい。

【D 委員】

個人的には木彫りの里の株主である。道の駅である木彫りの里のすぐ隣の奥に井波彫刻総合会館があるが、両者が協力し連携しないと、なかなか経営改善されないのではないかと考える。

【ブランド戦略部長】

木彫りの里は経営改善の取組として、道の駅高岡と業務提携しており、共同仕入れによる経費削減を行ったり、営業を強化している。社員にも面接を実施してやる気のある社員が残っているが、月によって業績が良かったり悪かったりし、一喜一憂している。大手旅行会社には彫刻総合会館も含めた旅行商品を開発していただいております。今後も、連携を強化していきたい。

【委員長】

点検評価の項目に、経営改善に努められたい等、それぞれの団体に期待している事が書かれているが、うまく進んでいないから赤字状態が続いている。年度ごとの経営改善計画については提出してもらっているか。

【行革・施設管理課長】

個別の団体ごとに改革項目の目標値を設定しており、その達成状況について市に報告してもらっている。

【市長政策部担当部長】

各三セクは、3年間の経営改善実施計画を立てており、その中でも、経常利益の向上を

中心に取り組んでいる。

【委員長】

中小企業と関わっているが、経営改善計画を立てる際に、プロの中小企業診断士や県事業の経営指導員に指導してもらう例がある。自助努力も大切だが、外部から経営状況や改善取組を見てもらう機会も必要だと思う。

【市長政策部担当部長】

三セクが行政に頼らず、自分ごととして改善に取り組む必要があると考える。個別にヒアリングを実施しているので、その中でも助言していきたい。

【ブランド戦略部長】

外部の目を入れて実効性を高める重要性も認識している。ジェイウイングは平成26年に外部コンサルに指導を仰ぎ、平成27年から実施した結果、黒字に転じている。福野まちづくりはスポーツクラブ系のコンサルを入れ、木彫りの里は外部と業務提携を行っている。

【委員長】

第三セクターに対して、アフターフォローしていくことも大切だと思う。

【委員長】

全体を通して、ご質問・ご意見をいただきたい。

【E 委員】

行政改革実施計画の実績で44ページに、女性委員の登用率が平成28年度未調査と書かれているが、調査していないのか。

【行革・施設管理課長】

資料の作成時点では未確定だったが、先日確認したところ185人である。

【B 委員】

公共施設再編の5月末時点の実績が報告された。今は少し進んでいるかもしれないが、短期に取り組むと位置づけている施設については、スタートダッシュが大切だと思う。平成32年まで全て終わることができるのか。美山荘の例で言うと、担当者と社協のキャッチボールだけでは前に進んでいない。地域や利用者も巻き込みながら交渉していかないと進まないと思う。施設再編のペースとしては、どのような認識でいるのか。

【行革・施設管理課長】

交渉は行っているが、厳しい状況である。どのように進めていけばよいか、何が課題となっているか検討する必要がある、昨日も内部で話し合いを行った。取壊し費用が問題なのか、改修費が問題なのか、市として対応できる部分を踏まえて、関係者の皆様の協力をいただきながら前に進めたい。

【F 委員】

市の財政状況が厳しい中であって、施設再編が実績として表れていないと感じる。使用目的を変更する考え方も示されているが、施設を生き延びさせようとしているように見える。経費がかかり、市のお金を使っている以上、早めに休止するなりしないと、いつまでたっても進まないと思う。

【行革・施設管理課長】

公共施設再編計画の前に公共施設等総合管理計画を策定しており、文化センターは1、2箇所に、体育館は旧町単位で1、2箇所に集約することとなっている。削減目標に対して延床面積6万㎡相当の対処が決定していないこともあり、平成32年には計画を見直す予定である。利用目的変更は、活用方法を提案してもらって、民間による全く別の使い方をするを想定しており、市の関与を外すという考え方である。

【市長政策部担当部長】

施設を全て生き延びさせようとしているわけではない。活用方法がどうしても見つからなかった場合に最終的に取り壊すが、民間譲渡後も使ってもらえるよう交渉している。

【G 委員】

公共交通に関する項目には、市の路線のこししか記述されていない。高齢者による運転免許証の返納もあり、公共交通の利用は増えていくと思うが、民間交通との連携についてはどう考えているか。連携に関する数値はないのか。

【市長政策部担当部長】

民間交通との連携に関する数値は把握していない。公共交通は重要施策の一つであり、実証実験等のチャレンジをしながら、どのように発展させるか検討していきたい。

【H 委員】

第1期行政改革実施計画の実績で、後退したと位置づけられている項目がいくつかあるが、その具体的な対策が書かれていないのが残念である。平成29年度以降はどのようなになっているか。

【行革・施設管理課長】

進捗がよくなかった改革事項の対策については、5ページ以降に項目ごとに取組を記載しており、反省点を踏まえて各担当課で対応している。平成29年度から始まっている第2期の行政改革実施計画については、昨年度の行政改革推進委員会でもお示しし、いただいた意見等を参考に策定している。

【委員長】

行革実施計画の実績の中で、後退となっているものの中には、これからの地域社会の中で課題となってくる「市内公共交通体系の連携強化」があるが、今後具体的にどう進めるか検討していかなければならないと思う。「ICカードの普及と多目的利用の推進」、「時間外勤務手当の削減」、「NPO等の設立及び活動支援」など、重要となってくる項目も含まれるので、将来に向けて住民に対して方向性を示す必要がある。改革の進捗具合と達成率の関係については、少し違和感があるので、見た人に分かりやすい工夫があればよいと思う。公共施設再編は、スピード感がないとの意見があった。難しいと思うが、地域の中でどのように活用できるか考える場を設けたり、譲渡を受ける側のビジネスアイデアを生かせるような仕組みを検討し、取り組まないと30年後に施設を半減させる目標達成は厳しいと思われる。原因分析を検証し、資産価値の高いうちに進めていくべきと感じた。本日の会議では、活発な意見をいただいた。今後、計画がスムーズに推進するよう取り組んで欲しい。

【市長政策部担当部長】

委員の皆様方には、長時間に渡り貴重なご意見をいただいた。それでは、閉会にあたり、市長がご挨拶申し上げます。

【市長】

多くのご意見をいただき感謝する。重要課題については、第2期の行政改革実施計画に盛り込まれている。行政改革推進本部会議でその進捗状況が報告され、指示を出している。施設再編を進める中で、つぶせるものはつぶせ、との声もあるが、その前に利活用できないかを検討しているところである。中には、大きな延床面積の建物もあり、関係団体等と方向性を協議している。婚活事業もそうであったように、時間がかかるが後半には着実に実績を出していきたい。本日の協議事項も含め、普段からお気づきになる点などあれば、その都度担当部署に伝えて欲しい。長時間にわたり様々な議論をいただいたが、今後ともよろしく願いたい。

【市長政策部担当部長】

以上で、第1回 南砺市行政改革推進委員会を閉会する。